

おかえり

ひきみとつながる。
UIターン情報誌2019. 3月

特集

◆匹見の未来は自分たちで切り開こう

匹見神楽社中若手メンバー中心に
「みらいまつり」誕生

◆交流から滞在、そして定住へ

- 民泊・日帰り体験
- 田舎体験・ボランティア
- 田舎暮らし体験施設
- 就業支援・住まい
- 空き家に関する各種事業

～交流から滞在、そして定住へ～

ますだ暮らしキャラクター



ぐりお わさまる ゆずりん

ちょこっと匹見を体験したい方は… (平成31年3月末現在の情報です。)

◇民泊



みよし
民泊「三四四」

- 体験内容
料理体験 (押し寿司、巻き寿司、郷土料理「うずめ飯」、手打ちそば、餅)、布ぞうり作り等
- 料金
1泊2食付 7,000円 (食事は共同調理)
※体験料は別途必要になります。
- 住所・連絡先
益田市匹見町道川イ214
tel/fax 0856-58-0020

◇日帰り体験



うつだに
「内谷とちの郷」

- 体験内容
料理体験 (わさび漬け、こんにやく、とちもち)、わさび収穫体験
- 料金
直接お問い合わせ下さい。
- 住所・連絡先
益田市匹見町石谷口561
tel/fax 0856-56-0589



ほんまち
「本間ん家」

- 体験内容
薪と囲炉裏のある生活 (薪割り、囲炉裏と七輪での食事作り等)
- 料金
直接お問い合わせ下さい。
- 住所・連絡先
益田市匹見町道川イ177
tel 090-8878-0095

◇田舎体験・ボランティア

【田舎体験】

匹見町では、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。



わさび収穫体験

【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。



ブルーベリー摘み取り作業

もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

《使用料》

施設区分	戸数	使用料(月額)
単身用(1DK)	2	8,100円
世帯用(3DK)	2	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。
(空室状況等詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせ下さい。)



匹見への定住をお考えの方は…

◇UIターン相談窓口

匹見への移住をお考えの方のために、相談窓口を設置しています。困ったことや分からないことがあれば、お気軽に下記窓口まで、ご相談ください。

◇住まい

空き家や公営住宅をご紹介します。

//// 空き家に関する各種事業 ////

空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方々が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の3分の1以内(上限30万円)を①空き家の購入者または入居者(UIターン者に限る)、または②UIターン者と賃貸借契約を締結した空き家の所有者に補助します。ただし、経費の額が30万円以上であるものに限りません。

※この他にも、空き家や住宅に関する補助制度があります。

◎ 定住・UIターンに関する問い合わせ先

益田市匹見総合支所 地域振興課
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0302 FAX 0856-56-0362
ホームページ <http://www.city.masuda.lg.jp/teiju/>

匹見の未来は自分たちで切り開こう

―― 匹見神楽社中若手メンバー中心に「みらいまつり」誕生 ――

ゴールデンウィークの恒例イベント「匹見峡春祭り」は、今年で39回目を迎えます。かつては3日間連続で開催されていましたが、それが2日間になり、平成29年から1日間のみの開催に。祭りが縮小されることに寂しさとは匹見の将来に危機感を持った匹見神楽社中の若手メンバーが中心となり、手弁当のイベントを誕生させました。

平成29年3月中旬、匹見峡レストパークで行われた社中の新年会。高齢化や人手不足で、その年から春祭りが1日間開催になることをレストパークのスタッフから知ら



写真左から大畑馨さん、長谷川太一さん、蔵本品夫さん

されます。レストパークは国定公園内にあり、春祭りのメイン会場。春祭りが縮小されれば、観光シーズンに「お客さんが来なくなる」。そんな切実な状況を聞いた社中メ

ンバーの一人、長谷川太一さん(34)が口火を切ります。「何か自分たちにできんじやろうか」。メンバーはその声に応え、とんとん拍子で話がまとまり、社中単独公演をすることになりました。



匹見出身の森島咲希さん(写真上)と大谷匠さんは、ヨガとダンスを披露

手探り続く初のイベント企画運営。単独公演まで2か月。神楽を公演する立場から、イベントを主導する側になり、手探り状態が続きました。

ゼロ予算。しかもポスターが完成したのは1週間前。告知もままならない中、どれだけの来場者があるのか未知数でしたが、300名超の人で会場が埋め尽くされました。

益田市内で働く長谷川さんを、大畑馨さん(35)と社中に加入したての蔵本品夫さん(30)がサポート。地元関係者の調整役を大畑さんが、デザインに精通する蔵本さんがポスター制作やSNSによるPRを担いました。

「公演だけでなく飲食の屋台もあったらええのお」。そんな声を受け、地元有志が出店し、後押ししてくれるようになりました。イベントのタイトルも決まりました。「匹見の未来は自分たちで

公演は、「神迎え」で幕開け。「恵比須」や「貴船」「大蛇」など6演目を休憩なしで演じ切り、会場からは大きな拍手とエールが贈られました。「お客さんが喜んでくれた。良かった」。社中メンバーは達成感に包まれました。

出演の快諾を得ることができました。出店の輪も広がり、新たに抹茶席や手作り小物の販売、木のパズルコーナーなどを設置。匹見在住の同年代から、「手伝うことがあれば声をかけてほしい」と申し出があったことが、何より嬉しかったそうです。地域のあちこちから協力の声があがり、点と点がつながり線となって、大きな面になった瞬間でした。

新しい動きへ

匹見を想う気持ちは新しい動きへと発展していきます。

「大阪府北部地震」や「平成30年7月豪雨」で、匹見と古くから交流があり毎年大阪公演の招待がある高槻市(益田市の姉妹都市)と、秋祭りで奉納神楽を舞った春日神社(広島県安芸郡海田町)が被害に遭い、他人事とは思えませんでした。

先輩メンバー達も若手の取組を支えました。盆の恒例行事「匹見こいこい夏祭り」の花火打ち上げの資金になればと募金の話が持ち上がった際、大畑陽正さん(64)が募金箱を制作。社中のまとめ役の青木睦さん(51)を中心に、社中全体で協力し2回目を終えました。

「社中として自分たちに何かできんじやろうか」。皆から「若頭」と呼ばれている長谷川さんから「指令」を受けた蔵本さんと久保輝さん(29)たち若手メンバーは、「匹見こいこい夏祭り」でチャリティ屋台を出し、収益金全額と募金箱

に集まった計7万円を義援金として被災地に届けました。

大阪・関西万博での石見神楽公演の夢乗せて SDGs が達成される、みらいまつりへ

みらいまつり3年目、改元となる今年は、「自分たちは何ができるのか、どう生きていくのか、この地で生きることを考え実行に移す良い機会にしたい」と、「大阪・関西万博」が目指す「SDGs」(国連総会で採択された、持続可能な開発目標の略)が達成される社会に向け、大きな一歩を踏み出します。廃棄物の削減や自然環境の保護、持続可能な観光業の促進につながる取組をみらいまつりに



社中の思いに応え、地域住民も出店協力



みらいまつり会場は多くの来場者で賑わった



チャリティ屋台を企画・運営した皆さん



匹見社中の皆さん。代表の柴幹士さん(前列右から3人目)を囲んで

取り入れることで、SDGsの周知や実践の動機づけになればと考えています。そして、「大阪・関西万博で石見神楽を公演したい」。そんな大きな夢も描いています。「自分の役目は、人と人をつなぐこと。つながった先の関係性で皆が生き活きと生きていくきっかけになれば」と長谷川さん。更に「社中の若いメンバーには、やりたいことを実現してほしいし、それを後押しする仲間もいる」とも。社中の裏方で、今では長谷川さんと企画を推し進める蔵本さんは、「一番エネルギーで行動力があり、メンバーもついていく」と長谷川さんを評します。大畑さんは、「一人でも欠けると成り立たない神楽のように、目立ちはないが皆が必要としてくれる存在でありたい」と抱負を語りました。社中代表の柴幹士さん(68)は、「若者が率先して活動することはとても良いこと。これから先も、できる限り続けてほしい」と見守っています。それぞれの立場で役割を果たして形にし、更に進化を遂げる、みらいまつり。今年もレストパークで5月4日に開催されます。